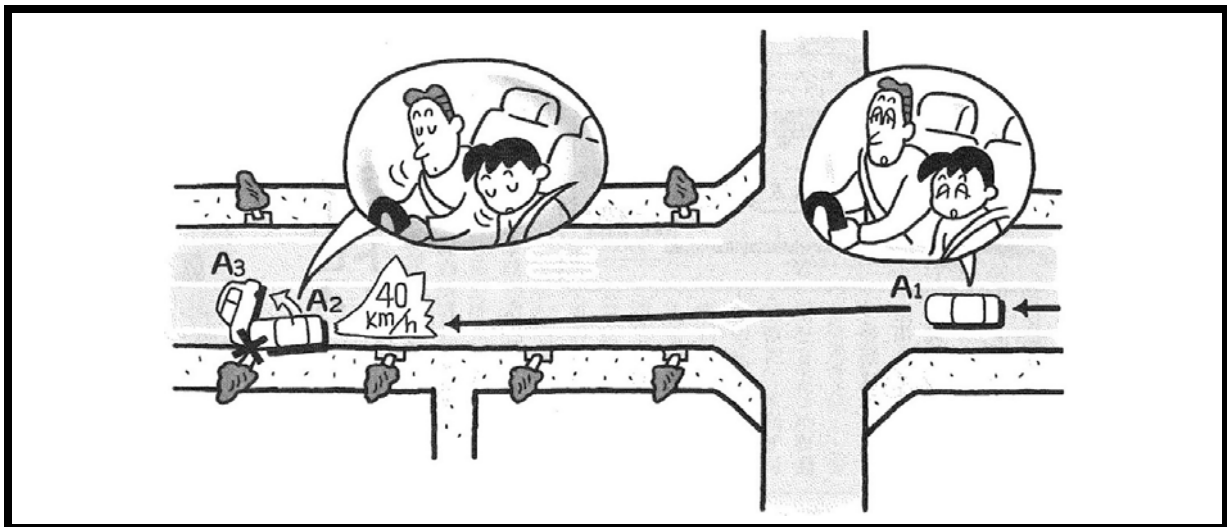


■事故の概況



事故類型：車両単独

発生日時：

当事者A：普通乗用車 40歳代 男性

■ 事故の概要

Aは小学校高学年の息子にせがまれ、お昼頃にA車に息子を乗せ、ボウリング場に出かけました。息子とボウリングを楽しんだあと、途中買い物にも立ち寄り帰途につきました。あとちょっとで自宅に到着するという所まで来たとき、Aは強い眠気を感じ、息子とのボウリングの疲れと、人混みの中での買い物のせいかと思いました。そこで、Aは眠気を吹き飛ばすため、助手席に同乗していた息子に、「大声を出して自分に話しかけてくれ」と言いました。父親から頼まれた息子は張り切って大きな声で話しかけていましたが、息子自身も疲れからか、そのうち眠りこんでしまいました。Aは、息子の声がだんだん遠くなっていくと思いながらも、自分自身も睡魔に引き込まれ居眠り運転となってしまいました。

■ 事故から学ぶ

Aは普段から自動車に乗ると眠くなると言っていました。Aが事故の前日どのような睡眠をとったかについてはわかりませんが、睡眠の質に問題があったのではないかと疑問が残ります。普段から自動車に乗ると眠くなることを自分自身で知っているのであれば、眠くなった時点で、たとえそれが自宅近くであっても安全な場所に駐車して短時間の睡眠をとるなどして眠気を解消してから運転すべきでした。なお、このような人は、「睡眠時無呼吸症候群」の疑いもあるので専門の医療機関で診察を受けることも大切です。